



Sturm

シュトゥルム

今年も楽しい夏をご一緒に！

梅雨明けごろに帰国する伊都さんを待つように、TRAUBEN も活発に動きはじめます。皆さんの笑顔、伊都さんの笑顔に今年もいっぱいお会いできますように！！



伊都さん近況報告

前回、ウィーンの春の天気が油断できない・・・という話をしましたが、予感的中、例年なら6月にはいるともうすでに夏気分全開、暑い日差しを浴びながら、もうすぐやってくる夏休みへ期待が一日一日と高まるはずが、今年はそれまで好調子に続いていた夏日和が6月半ばに一変、暗い冬を連想させるかのような、来る日も来る日も空を厚く覆う雲をにらみながら、戸棚の奥にしまったセーターをとりだし(なにしろ最高気温が15度なのです！)傘を片手に重い腰をあげて出かけなければならない天気が続いています。

それでも話題はヨーロッパの人々が大好きな夏休みをどこでどう過ごすかばかり。(本当に、こちらの人にはそれが生きがいのようなのです！)残念ながら音楽家には、夏休み中に音楽祭というイベントが待ち受けており、普段よりも演奏しなければいけないことも多いので、みなその音楽祭が終わってからやその間をぬって、どれだけ夏の休暇を楽しむことができるか、かなり真剣に悩みます。

私は今年も休みの半分を日本で過ごしますが、夏のコンサート、ヨーロッパの人たちが、音楽とともに、ゆっくり夏を楽しむように、そのゆったりとした時間の流れを、皆さんに味わっていただけるよう、今から準備をしたいと思っています。

【伊都】

夏のイベント日程が決まりました！

- ◆ TRAUBEN 親睦会 8月1日(土) 2:00pm~4:00pm 山手234番館
- ◆ イギリス館コンサート 8月16日(日) 6:30pm開場 7:00pm開演

今年もやります。親睦会とコンサート！ 詳細は皆様にお送りした通りです。コンサートについては、昨年、予約受付開始後2週間で満席となりました。会員の皆様には一般の予約開始より一週間先行してお知らせしています。どうぞお早目に座席を予約してください。料金は親睦会もコンサートも当日お支払いください。伊都さんの演奏と、冷えたオーストリアワインで、爽やかに真夏の休日を過ごしませんか？



op. 5

いとちゃんのクラシック講座



今年2009年は作曲家、ハイドン没後200年と前回書きましたが、もう一人、ドイツの偉大な作曲家フェリックス・メンデルスゾーンの生誕200年にあたる年でもあります。

ハイドンが亡くなった1809年にドイツのハンブルグにてユダヤ人銀行家の裕福な家に生まれたメンデルスゾーンが、あの有名な結婚行進曲(パンパカパーン!というやつです!)を書いた作曲家にもかかわらず、あまり一般的に有名でないのは、彼の生きていた当時からユダヤ人であるための言われなき迫害を受け、ナチスの時代にはその銅像が焼き払われたという、ドイツの歴史的背景があるのではないかとされています。

一度聞いた音楽は完璧に覚えることができるという超人的な記憶力を持っていたメンデルスゾーンは、ユダヤ人迫害の矢面に立たされた精神的な疲労もあってか、「疲れたよ。ひどく疲れた」といって37歳の若さで息をひきとりましたが、その間に、500曲を超える自身の作品、そして、当時忘れ去られていた大バッハの楽譜を自ら発掘してその偉大な作品をよみがえらせ、演奏困難な作曲家として敬遠されていたベートーヴェンの作品を広くとりあげてその価値を不動のものとし、またそれまで独立していなかった指揮者の職務を独立させて、自ら有能な指揮者として活躍したのち、現在にいたるまでの指揮法を確立するという数々の偉業を成し遂げました。

「良い音楽は演奏されなければならない」といったメンデルスゾーン、その純粋な音楽への情熱を私たち音楽家は引き継いでいかなければならないと感じています。 【伊都】



DVDクラシックコレクション



今号から新しいコラム「DVD クラシックコレクション」が登場!

第一作目としてご紹介するのは「敬愛なるベートーヴェン」(2006年イギリス、ハンガリー合作映画)です。

ストーリー 1824年、ウィーン。「第九」初演の数日前にベートーヴェンのもとに写譜師(楽譜を清書する仕事)として、音楽学校の学生で作曲家志望の若き女性アンナが訪れた。耳の聞こえないベートーヴェンを才能豊かなアンナが支え、やがてお互いの魂が深く触れ合っていく。

見どころ 「第九」の初演シーン。指揮をするベートーヴェンから見える位置に座り、テンポと入りの合図を送るアンナ。二人の指先が美しく描写され、「歓喜の歌」の高揚感を見事に表現している。

感想 「苦悩に満ちたベートーヴェン」というイメージがちよっと変わり、奔放で気難しいけれど、純粋で憎めない、魂の芸術家…に好感度アップ! 彼の3人目の写譜師は今でも謎の人物らしいのですが、若く美しい女性という設定で描かれ、とても魅力的。映像もセピアっぽくて素敵です。「歓喜の歌」イコール年末、が払拭されました。

編集後記 若い時には大好きだった夏も、年とともにいつしか苦手になっていました。新しい人生の扉を自分の意志で開けていく年齢になった今、夏の楽しみの選択肢は、昔よりもたくさんあるような気がします。海でも山でも映画館でも、この頃目立つ「シニア」の三文字。TSUTAYAの「シニア半額割引」は若者に羨ましがられています…。(DVD見て下さいね)心の栄養をたくさん摂れば苦手な夏も乗りきれそう。ということで、夏の楽しみのひとつにTRAUBENのイベントを是非加えて下さいね。《ゆ》

発行：加納伊都後援会 TRAUBEN

〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台15

TEL : 045-622-6780

FAX : 045-621-6423

Email : itoviolin-kouen@memoado.jp

Homepage : <http://www.ito-vn.jp/>